

ミャンマーにおける通信インフラ整備状況

<p.4>

当初の予想に反し、事業開始時点（2014年当時）では依然ミャンマー国内での通信インフラの脆弱さは改善されておらず、専用回線の敷設を事業期間内に終えることが困難であると分かった。そこで代案として日本メーカー製の大容量データ送信システムを利用し、マンモグラフィのデータのやり取りを日本国間で行えるように整備した。ただし、ごく最近になり衛星回線システムが整備されたり、国をあげてインターネット回線そのものの整備が進められていたり通信インフラ環境は今後大きく変化されることが想定されている。通信環境整備は今後のプロジェクトにとっても非常に重要なポイントであり、引き続き検討が必要であると考えている。

<p.11>

当初専用VPN回線を敷設し、日本国内で広く一般的に行われる遠隔診断を行う予定であったが、現地側の状況により困難であることが分かった。

<p.13>

通信環境に関しては、徐々に改善傾向にあることが確認されている。特に今回ヤンゴン医科大学の特別回線を利用すれば乳がん検診データをやり取りすることが可能であるということを別事例の中で確認し、ミャンマー国内においても衛星回線を利用して遠隔診断を行っているグループを確認した。